

『遠野物語』の世界

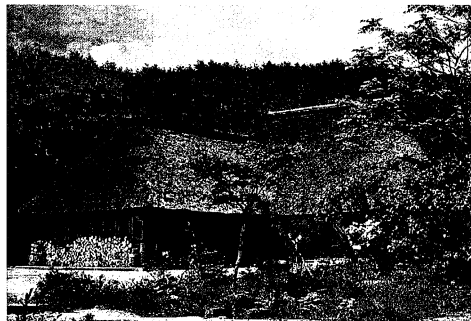
—謎解きの原点をたどる—

講師 『柳田国男全集』編集委員 小田 富英

広大な裾野をもつ柳田国男の学問は、「日本人とは何か」という大きな課題から、私たちの何気ないしぐさの根源がどこにあるのかと、いった素朴な疑問までを包み込んでいます。私は、「柳田国男年譜」作成の過程で、柳田学を「謎解きの学問」と位置づけることに意味を見つけました。そして、『遠野物語』こそ、その「謎解き」の原点の書だと確信しました。

日本民俗学の源流の書とも言われた『遠野物語』は、今や古典読み物になっています。

本講座では、一年かけて、そこに潜んでいる現代に通じるような「謎」を丁寧に読み進めて解いていきます。苦手意識をもち、頁を開かなかった方も、愛読書として何度も読み進めている方も、何気ない疑問や謎のなかに、柳田学や日本人論に繋がる大きなヒントが隠されていること気づく楽しさを共有していただければ幸いです。十月期は、『遠野物語』のなかで最大の人生苦、母親殺しの顛末や、今では昔話に位置づけられている「小鳥前生譚」の話、現代的な共生課題のヒントにもなる熊と狼の話を読み解きます。とくに、狼の話からは、今西錦司の自然学につながる柳田国男の一面にも光をあてます。ぜひいらしてください。お待ちしております。(講師・記)



↑遠野 南部曲り家

★2026年4月期開講。1年12講で学びます。裏面に今後のカリキュラムを掲載しています。

《今期テーマ》

10月1日 柳田国男の少年体験と『遠野物語』—母親殺しの人生苦—

11月5日 「聴き做し」の小鳥前生譚を読む—柳田の愛鳥趣味のゆくえ—

12月3日 熊と狼の話を読む—今西錦司や梅棹忠夫への柳田国男の眼差し—

＜テキスト＞当日プリントを配布します。

★講師詳細は、裏面をご覧ください。

日 時 2026年 10/1, 11/5, 12/3 3回 第1木曜日 13:30～15:00

受講料 会員 10,890円(入会金は5,500円。70歳以上は入会無料、証明書が必要です)

一般 14,190円

設備費 660円

※入会金・受講料・教材費等は消費税10%を含む金額です。

場 所 ルミネ横浜8階(横浜駅東口)

◎オンライン注意事項は、ホームページの「講座詳細」をご覧ください。

＜今後の予定＞

【第4期】2027年1月～3月

10回 1月 魂の行方の話を読む②—今につながる99話を残した柳田国男の思い—

11回 2月 名文と言われる「序文」を読む—「平地人」とは誰かを考えながら—

12回 3月 オシラサマの話を読む—謎が謎をよぶ未知の世界へ—

＜終了したカリキュラム＞

1回：柳田国男が『遠野物語』に託した願い—以前と以後の柳田国男をなぞって—

2回：『遠野物語』の構成—「原本 遠野物語」の読み方—

3回：山人・山男と神隠しの話を読む—「サムトの婆」と「マヨヒガ」の話—

4回：ザシキワラシの話を読む—佐々木喜善と宮澤賢治につながる—

5回：河童の話を読む—遠野の河童は妖怪ではない—

6回：魂の行方の話を読む①—本当に幽霊がでたのか—

＜講師紹介＞小田 富英(おだ・とみひで) 東京学芸大学卒。36年間東京都公立小学校教員を勤めた後、作新学院大学特任教授を経て、現在、『柳田国男全集』編集委員、日本地名研究所理事、『地名と風土』編集長、遠野文化研究センター研究員、常民大学運営委員、『遠野物語』で交流を楽しむ会(『遠野物語』交流楽会)代表など。

編著：『柳田国男全集』別巻I「年譜」(筑摩書房)、『柳田国男自筆 原本 遠野物語』(岩波書店)、共著：『柳田国男伝』(三一書房)、『口語訳 遠野物語』(河出文庫)、『犯罪の民俗学2』(批評社)、『わいわい学級』(現代書館)、『地域に根ざ

す民衆文化の創造—「常民大学」の総合的研究』(藤原書店)など。論文：「初稿本『遠野物語』の問題」(『国文学』)、「柳田国男おじいさんのメッセージ」(『毎日小学生新聞』連載)、「平地人とはだれか」の三回連載(『伊那民俗研究』『遠野学』)、『遠野物語』と遠野郷民俗誌の間(『地名と風土』第13号)、「新渡戸稲造と柳田国男」(『新渡戸稲造の世界』第28号)、「柳田国男ゆかりの富山の土地と人」(『地名と風土』第14号)、「柳田国男年譜作成の現場から」(『日本古書通信』1101号～1103号)「柳田学と後藤民俗思想史をつなぐ」(『伊那民俗研究』第29号)、「谷川健一と後藤総一郎」(『地名と風土』第15号)、「柳田国男ゆかりの越前・若狭の土地と人」(『地名と風土』第16号)、「謎解き 原本 遠野物語」(『現代思想』第50巻第8号、2022年7月臨時増刊号)「日本文化研究の一隅に地名の柱を一柳田国男の地名研究の「揺らぎ」に学ぶ—」(『地名と風土』第17号)「『柳田国男年譜』作成後の今、考えていること」(『常民大学紀要13 常民大学と地域文化』2024年8月)、「伊勢路・黙契の旅の柳田国男」(『地名と風土』第18号)など多数。

※ご入会の優待制度をご利用の方はお申し出ください。

※日程が変更されることがありますので、ご了承ください。

※講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。



 朝日カルチャーセンター

横浜教室 045-453-1122

〒220-0011 横浜市区西高島2-16-1 ルミネ横浜8階
<http://www.asahiculture.com/yokohama>